

## 退任挨拶

前会長  
吉野浩行



日本知的財産協会会長の役割を2年間つとめてまいりましたが、このたび退任させていただくことになりました。退任にあたり、皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

知的財産は企業にとって非常に重要なものであるという共通認識の下、知的財産制度をより使いやすいものにするという政府の一連の取り組みがこの5、6年続いています。この流れの最初の一滴は、経済産業省が主催し2001年から2002年にかけて検討が行われた、「産業競争力と知的財産を考える研究会」であったと思います。私はその研究会

に委員として参加したのをスタートとして、最近の知財戦略推進本部主催の「知的創造サイクル専門調査会」への参加まで、常に何らかの形でこうした取り組みに接することができ、この間の知的財産制度の変化を知ることができました。大変大きな変化であったと思います。そして現段階でもさまざまな知財の課題、とりわけ各国特許庁の審査協力や世界特許に向けての検討が続いています。

一方で、制度自体の検討とは別に、どのように使うのが企業や産業の競争力として役に立つのかという観点からの検討の重要性がますます高まってきました。知財制度自体は企業間競争、産業の国際競争にフェアなフィールドを提供するものであり、制度自体は万人に平等なものとして構成されます。それをどのように効果的に使うかについては、使う側の判断に委ねられますが、そこに適切なアドバイスや事例の提供ができ、活動の方向性が示せるのは、日本知的財産協会であると思います。各種専門委員会やプロジェクトを通じての会員相互の研鑽はとても効果が大きくでます。

この2年間の日本知的財産協会の方針として「経営に資する知的財産活動」があげられております。その方針のもとに、2005年度にはJIPA常務理事・委員長会議においてさまざまな産業界の知的財産の使い方の違いに焦点をあてた意見交換を行いました。これには私自身も参加し違いについて楽しく拝聴いたしました。また2006年度にはJIPAシンポジウムのメインテーマとして「経営に資する知的財産」をとりあげ、活発な議論が行われました。この方針は単年度のものではなく、日本知的財産協会の活動の本来の目的であろうと思います。

私の後任の会長は三菱電機の野間口さんにお引き受けいただきました。野間口さんは政府の各種知的財産関係の委員を歴任され、知的財産に関して非常にすぐれた見識のある方ですので今後の日本知的財産協会の会長としてとてもふさわしいと思います。皆様から新会長にご支援、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

最後に新会長のもとでの日本知的財産協会のますますの発展と、皆様方の今後のご活躍を祈念して私の挨拶とさせていただきます。